



みやがわ のりみつ
宮川 徳光 議員

公衆用道路

改修時の足かせ 対策は 抜本策は町への寄附

問 地籍調査に際しては、それまでに所有者が地区内の車社会への対応など、公共的により良い住環境になればとの思いで所有

答 土居総務課長
公衆用道路の改修については、現状、地区内の協力の基に、所有者全員に改修等工事の施工同意をいただき、町が施工す

地を提供することで拡張された道路にも、現状に即した境界杭が打たれた。その結果、公衆用道路となつている私有地については、改修などの際、所有者の意思確認などが足かせとなつているように聞か、対策は。



町道～町道を結ぶ 70m弱の公衆用道路の一部。道路のセンターまでが左右の宅地所有者名義の私有地となっている。黄色○印内は宅地と道路との境界杭（入野早咲）

る方法となつている。しかし、この方法では依然として所有権は変わらないため、施工以後は所有者の管理となる。これらの現状を解消し、町により施工できるようにする抜本策としては、当該土地を町に寄附いただき、道路全体の登記名義を町に移転することが方法の一つだと考える。町道となれば、以後は町の管理の下に維持修繕を継続することが可能となる。

住環境改善

入野松原 支障木伐採計画は 今年9月以降に施業予定

問 入野松原 入野松原立自然公園（入野松原）については、平成24年度当時に浜の宮、新町、万行の3地区より

支障木伐採の要望があり、翌年に新町地区に接する支障木を伐採して松の苗木が植えられた。その後、動きが見られないままだが、計画の現状を問う。

答 今西海洋森林課長
入野松原については、国有林、県有林、町有林に分かれ、四万十森林管

署、幡多林業事務所、黒潮町において、それぞれが管理を行っている。松原は、防風・塩害対策の保安林で現場での伐採が容易でないため、樹木が大木化し、隣接する住家の生活環境の悪化や、農地作物への悪影響が生

じている。

なお、本年度、浜の宮地区やかつき館などから要望があり、四万十森林管理署が当該地区の一部支障木の伐採を、本年9月以降より、数回に分けての施業を予定していると伺っている。

また、要望の件は、予算の関係上、先延ばしになって伐採するまでに期間が長くなる場合もあるので、それらも踏まえて、少しでも前に進める形での伐採を考えている。今後も、地元地域からの声を反映し、松原全般の維持管理状況を、国、県、黒潮町の3者が情報共有し、住環境の改善に向けての取り組みを更に進めていきたい。



住宅そばで大きくなり過ぎた入野松原の雑木
（令和4年9月中旬、入野浜の宮）